東京都知事　小池百合子　様

２０１７年2月２７日
日本共産党東京都議会議員団

都立夜間定時制高校４校の存続に関する申し入れ

東京都教育委員会は２０１５年１１月、都立高校夜間定時制４校（小山台・雪谷・江北・立川）の閉課程（廃止）をもりこんだ「都立高校改革推進計画・新実施計画（案）」を発表しました。驚いた４校関係者をはじめ多くの都民が、存続を求める署名活動を行い、都議会には合計２万４５７９筆の「小山台・雪谷・江北・立川高校の夜間定時制の存続を求める請願」署名が提出されました。

ノーベル賞受賞者で都立墨田工業高校定時制で教鞭をとった経験を持つ大村智北里大学特別栄誉教授や映画監督の山田洋次氏など１２５名の文化人が存続に賛同する共同声明をだし、東京弁護士会や関東弁護士連合会も廃止反対の声明を発表しました。「夜間中学校と教育を語る会」なども４校の存続を求め、「新実施計画（案）」へのパブリックコメントも、意見の９割以上が定時制廃止反対でした。

２０１６年2月に廃止計画が決定された後も、４校関係者らの存続の声はやむことがなく、今年1月１３日には小池知事と東京都教育委員会あてに「東京都教育委員会の決定を凍結し、小山台・雪谷・江北・立川高校の夜間定時制の存続を求める請願」署名、合計３万５０６筆を提出しています。

小池知事が策定した東京都教育施策大綱へのパブリックコメントにも「夜間定時制を存続し、充実して欲しい」という意見が寄せられています。

夜間定時制は、昼間働いている生徒や全日制に合格できなかった生徒、不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒、夜間中学の卒業生、若い時に学ぶ機会を逸した年配の社会人、外国につながる生徒など、多様な生徒の学びの場となっています。

都教育委員会は、チャレンジスクールが夜間定時制の代替になるかのように主張していますが、その役割もニーズも異なるものです。チャレンジスクールは学級のない単位制高校であるのに対し、夜間定時制には学級があり、担任や級友との温かい人間関係があるから成長できたという生徒が少なくありません。

４校の選定についても疑問と問題点が多く指摘されています。たとえば、駅前にあり交通至便の小山台高校を廃止して、遠くに別の夜間定時制高校があるというのは、余りにも理不尽です。通学時間が長くなれば通いきれません。

そもそもなぜこの４校が廃止対象になったのかについて、疑問をもった都民が選定経過を示す文書を開示請求したところ、都教育委員会は、該当する公文書は存在しないと回答しています。当該校や周辺校などからの意見聴取をしたり教育庁内の会議などで検討して選んだものではないというのです。これでは都民はとうてい納得できません。

知事は、常に明日に向かって生き生きと活動できるまちダイバーシティ、すべての子どもたちの学びを支える、セーフティネットの構築を重視しています。また、外国の人につながる子どもたちが学べる共生社会も重視しています。

夜間定時制高校は、まさに多様な子どもたちの学びのセーフティネットの役割を果たしています。４校はそれぞれ特色をもち、地域に支えられ、少人数できめ細かい教育をおこなっています。夜間定時制高校の今日的な役割に、今まで以上に光を当て、積極的に周知、活用をはかるべきではないでしょうか。先日も、もう進学しないと言っていた中学３年生が、存続を求める会が夜間定時制高校の特徴を描いたニュースを見て、こんな学校なら私も通うことができると応募を決意したという事例が生まれています。

この立場から、ぜひ都民の声を直接聞いていただくこと、小山台・雪谷・江北・立川高校の夜間定時制の閉課程を中止し存続させるよう教育委員会と協議していただくことを、改めて求めるものです。

以　上